



図書だより 8月号

龍ヶ崎市立中根台中学校
2021. 8. 6発行
文責：竹島



新型コロナウイルスのため1年延期となったオリンピックが開催され、テレビ中継に熱い声援を送っている人も多いことでしょう。

オリンピックは、「平和の祭典」と呼ばれています。日本で開催されるのは2度目。前回は1964年の10月に行われました。今回の開催期間中には、8月6日の「広島平和記念日」が含まれています。この機会に、ぜひ平和や人権について学び、それらを守るために何ができるかを考えてほしいと思います。そのためのヒントになる本をいくつか紹介します。



ナピラとマララ

「対テロ戦争」に巻き込まれた二人の少女
(宮田律／著)



米国のドローン攻撃で祖母を失い、自らも兄とともに傷を負ったナピラ。教育を受ける権利を訴え、テロの標的にされたマララ。二人はともにパキスタンの少女です。本書は、それぞれのたどった道をていねいに比べながら、知られざるイスラム社会を公平な視点で教えてください。

平和のバトン

広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶
(弓狩匡純／著)



被爆体験をどうやって次世代に伝えていくかは、戦後76年が経過した現在、大きな課題となっています。

本書は、広島の高校生が被爆者に会い、被爆当日の記憶を聞き出し、それを絵に描く作業を記録したノンフィクション。「次世代と描く原爆の絵」プロジェクトとして、絵のレプリカは2年前に竜ヶ崎歴史民俗資料館に企画展示されました。



ハンナのかばん

アウシュビッツからのメッセージ
(カレン・レビン／著)



日本のホロコースト教育資料センターに展示されている旅行かばん。持ち主の名前はハンナ。けれども、わかっているのは名前だけ。ハンナってどんな少女だったのでしょうか？ハンナを探す旅が始まりました。彼女がたどった運命とは？

※平和について考えることは、人権問題への関心を高めるきっかけとなります。戦争は人が起こすものですが、それによって人の権利は簡単に踏みじられ、奪われてしまいます。

人権を奪うものは戦争だけではありません。身近なものでは、差別やいじめ問題があげられます。差別は、無知・無理解から起こるのではないかと指摘されています。



人権に関する本の紹介（書籍名・著者名のみ）

- 暴力から身をまもる本 (L.ジャフェ, L.サン＝マルク)
- 在日朝鮮人ってどんなひと？ (徐 京植)
- 自由って、なに？ (オスカー・ブルニフィエ)
- まどさんからの手紙 こどもたちへ (まど みちお)
- 〈自分らしさ〉って何だろう？自分と向き合う心理学 (榎本博明)
- 泣いたあとは、新しい靴をはこう。(日本ペンクラブ・編)
- イケてないと思ったら読む本 (横森 理香)
- 自分をまもる本 いじめ、もうがまんしない (ローズマリー・ストーンズ)
- あなたがもし奴隷だったら… (ジュリアス・レスター)
- 生きづらさを抱えるきみへ 逃げ道はいくらでもある -#with you- (withnews 編集部)

図書室にある本なので、ぜひ読んでください。

